令和元年度　体力・運動能力調査結果及び分析・対策（松江市立中央小学校）

令和2年3月25日

（1）児童の体力の現状

〇長座体前屈は全学年、男女ともに県の平均値を上回っている。
〇上体起こしは、ほとんどの学年で県の平均値を上回っている。
〇シャトルランは多少のばらつきがあるが、県の平均値とおおむね近い。
〇1年生男子は、反復横跳びと50m走以外では、県平均を上回っている。

●反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げはほとんどの学年が県の平均値を下回っている。特に、立ち幅跳びにおいて、男子は学年が上がるにつれて県との差が広がる傾向にある。
●50m走では、学年ごとにばらつきがみられるが5年生以外は県平均を男女ともに下回っている。
●1年生の女子の平均値が県の平均値を下回っている。

（2）令和元年度の具体目標の達成状況と課題

〇体づくり部を中心に体づくりの実践を重ねてきた。
・中央っ子サーキット…体育の授業はじめに実施。
・のびのびタイム…毎週水曜日をロング昼休みとし、体を動かす時間を確保した。
・チャレンジタイム…1～3年生が4～6年生にいろいろな技を教えてもらう時間。のびのびタイムを使って学期に一回程度実施した。
・ちゅオリンピック…年間4回全校で実施。「支える」「構える」「調整する」力を高めた。
・環境整備…ハイタッチ板や階段一段飛ばしを推奨するなど継続して行った。
・体づくり通信…掲示物や保護者にお便りで伝えた。
・中央っ子エクササイズ…5時間目始業前に昨年度より継続して実施した。

●走力、柔軟性においては、本校の取り組みの成果が出たように感じるが、反面、反復横跳びや投げるなど多様な動きの経験が乏しい児童が多いことが体力テストなどの様子からうかがえる。体づくりの実践内容を体力テストの結果や児童の実態も踏まえ、工夫していく必要がある。
●チャレンジカード…チャレンジタイムだけでなく、3年生以下は体育の授業の中でも実施したが、チャレンジカードの名人達成率は昨年度よりも結果が落ちた。

（3）令和2年度の取組【対策】

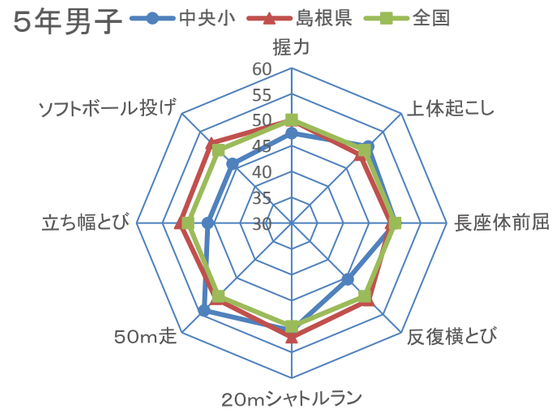
①学校における取組
・引き続き、「のびのびタイム」「チャレンジタイム」「ちゅオリンピック」「中央っ子エクササイズ」を実施していく。チャレンジカードの活用をさらに呼びかけ、各学年と共通理解しながら実践していかなければならない。多様な動きにつながる実践内容を体づくり部で検討し、実践をしていく。
・校舎内や校庭の環境整備

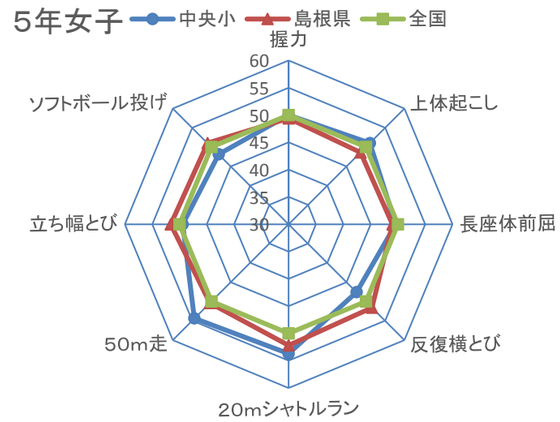
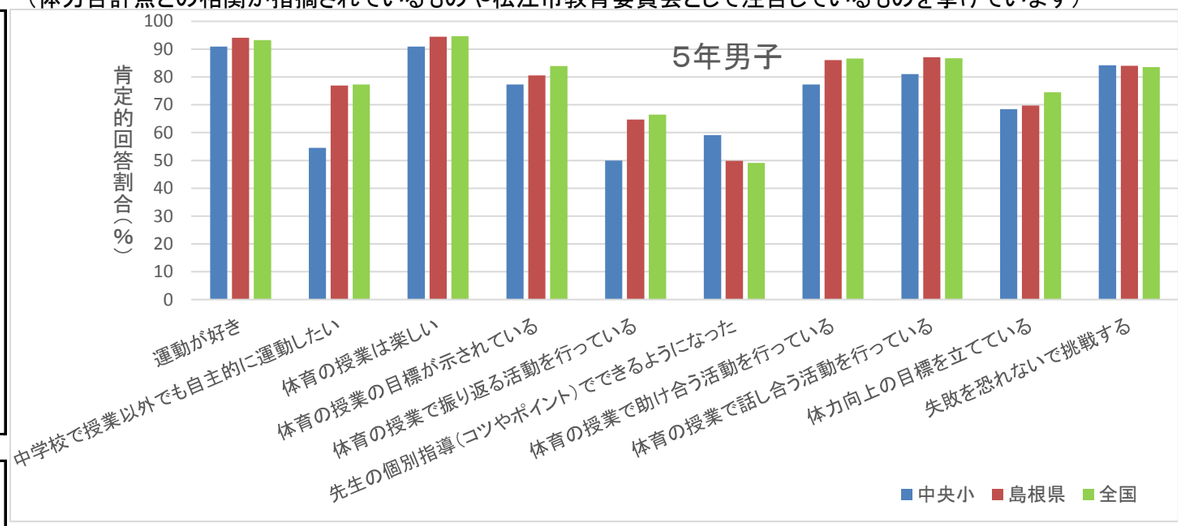
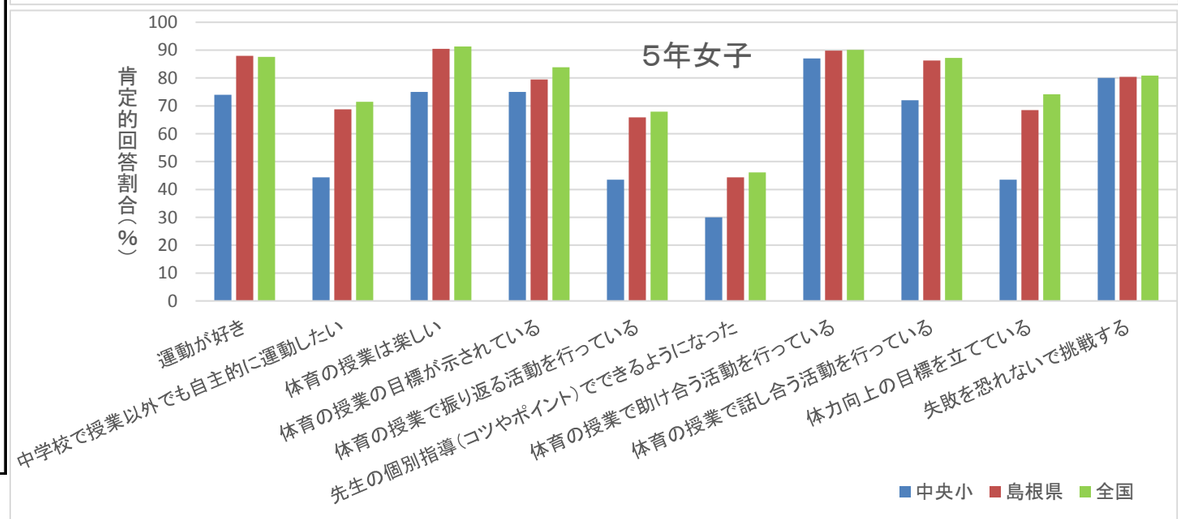
②地域や家庭との連携による取組
・体づくり部で定期的に体づくり通信を発行する。
・運動会を保護者の方に体づくりの成果を発表する場とすることで、保護者地域の方へ啓発を行う。
・学校保健委員会の中で、地域・学校・家庭が本校児童の生活や運動習慣についての実態や課題を共有する。

③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
・メディアコントロールウィークの継続的な実施と保護者との連携を通して、生活や運動習慣の意識付けや改善を図る。
・食の学習ノートを効果的に使い、学校給食センターとも連携し、食育を推進する。

調査実施者数（人）　1年（男子16・女子30）　2年（男子36・女子23）　3年（男子29・女子21）
4年（男子27・女子30）　5年（男子25・女子25）　6年（男子35・女子27）

（4）5年生　全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果（全国平均を50としたときの比較）





（5）全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査　5年生意識調査の結果
（体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています）